

(様式3-2)

# 熊本県英語教育改善プラン

## 実施内容

### (1) 研修体制の概要

#### 【小中学校】

- 中央研修を修了した英語教育推進リーダー（以下「推進リーダー」という）が、研修参加教員（小学校 60 人、中学校 70 人）に対し外部専門機関と連携して 2 時間×7 セットの研修実習（小学校：小学校中核教員研修、中学校：中学校英語教員研修実習）を行う。
- 小学校研修実習修了者は、各管内で実施する「英語担当者指導法研修会」において、研修内容を生かした授業実践を紹介し、管内での研修内容の共有化を図る。
- 推進リーダー及び研修実習修了者は、各勤務校で計画的に校内研修を行い、研修成果を自校の教員と共有する。中学校研修実習修了者は、自身の英語力向上について、その成果を外部検定試験の受験結果で検証する。
- 小学校英語教育フォローアップ研修において、推進リーダー等が講師を務め、小学校教員（各 40 人×4 回、計 160 人）に対して演習等を行い、基本的な教室英語等の習得を図る。
- 推進リーダーの所属する学校の中から、小中各 1 校を研修協力校（小学校：県北、中学校：県南）として選定し、外部専門機関との連携のもと公開授業及び授業研究会を行う。

#### 【高等学校】

- 推進リーダー 1 人につき英語教員 20 人程度に対し、2 時間×7 セットの研修実習を行う。また、研修参加教員は各勤務校で計画的に校内研修を行い、研修成果を自校の英語担当教員と共有する。さらに、自身の英語力向上について目標設定・進行管理を行い、その成果を外部検定試験の受験結果で検証する。
- 研修協力校等を会場に、大学等の外部専門機関から講師を招聘し、英語教員の指導力向上に資する講演会や研修会を適宜実施する。

以上、県教育委員会は、外部専門機関と連携しながら、推進リーダーの育成とともに、公立小中学校及び県立高等学校の英語担当教員の英語力及び指導力向上に向けて、目標設定・進行管理を適切に行いながら中・長期的な視野で研修体系の構築を図る。

外部専門機関としては、主に熊本大学、熊本県立大学、熊本学園大学等の県内大学を考え、現在調整中である。ただし、必要に応じて H28 年度同様に、国際教育交換協議会（C I E E）等の機関を通じて、県外からの講師招聘も行う。

（概要図：別紙 1 <小中学校>、別紙 2 <高等学校>）

### (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

#### 【小中学校】

公立中学校の第 3 学年に所属している生徒のうち、求められる英語力の指標である英検 3 級以上を取得しているかそれに相当する英語力を有すると思われる生徒の割合は 36.3%（平成 29 年 12 月現在）で、全国平均（28 年度）の 36.1% をわずかに上回っている。

また、英語担当教員のうち求められる英語力の指標である英検準 1 級以上等を所有する教員の割合は 31.3%（平成 29 年 12 月現在）で、全国平均（28 年度）の 31.8% を下回っている。

一方、授業における英語担当教員の英語使用状況が 50% 以上である割合は 77.9% で、全国平均（平成 28 年度）の 63.1% を上回っている。

こうした状況を踏まえ、平成 29 年度の到達目標を次のように設定し、目標達成に向けた取組を行う。

#### 【H29 現状値】（「平成 29 年度英語教育実施状況調査」より）

- ① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合【31.7%】
- ② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合【36.3%】

- ③ 「Can-Do リスト」の形式による学習到達目標の整備状況  
設定【100%】公表【29.8%】達成状況の把握【63.6%】
- ④ 授業における生徒の英語による言語活動時間の割合 50%以上【79.4%】
- ⑤ 授業における英語担当教員の英語使用状況 50%以上【77.9%】

【H30 目標値】

- ① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合【33.0%】
- ② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合【40.0%】
- ③ 「Can-Do リスト」の形式による学習到達目標の整備状況  
設定【100%】公表【50.0%】達成状況の把握【70.0%】
- ④ 授業における生徒の英語による言語活動時間の割合 50%以上【85.0%】
- ⑤ 授業における英語担当教員の英語使用状況 50%以上【85.0%】

目標値達成に向けた具体的な手立ては、次の通りである。

- ① 「教員の英語力向上」  
中学校英語教員研修実習に参加する 70 人は、原則として全員が TOEIC IP テストか英検準 1 級以上の受験をすることとし、英語力の向上に努める。  
また、県教委主催の各研修会等で英語力を更に向上させることの必要性を認識させ、英検等の外部検定試験の受験を促し、平成 30 年度の達成目標(33.0%)を目指す。
- ② 「生徒の英語力向上」  
中学校英語教員研修実習をはじめ県教委主催の各研修会等で、効果的な言語活動や具体的な指導法についての研修を実施し、教師の指導力の向上を図ることで、生徒の英語力を向上させる。また、生徒に自らの英語力向上の意欲を高め、到達度を把握させるために CAN DO リストの活用を推進するとともに、英検等の外部検定試験の受験を促し、平成 30 年度の達成目標(40.0%)を目指す。
- ③ 「CAN DO リストの活用」  
中学校英語教員研修実習をはじめ県教委主催の各研修会等で、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の公表の意義や、パフォーマンス・テスト、単元目標、本時の目標との関連を具体的に示す。今年度作成した「熊本の中学生はこれだけは言える」という文例を 7 つの題材で学年ごとに示した「KUMAMOTO English Standard」の活用を推進して授業改善を促す。
- ④ 「生徒の英語による言語活動時間の割合」  
各教育事務所が行う「学校訪問」において、本県で作成した「英語授業づくりのポイント」を活用する。特に、本時の目標及び単元目標の達成に向けた系統的・段階的な言語活動の設定を徹底することにより、平成 30 年度の達成目標(85.0%)を目指す。
- ⑤ 「英語教員の英語使用状況」  
中学校英語教員研修実習をはじめ県教委主催の各県集会等で、英語力・指導力の向上を図り、より効果的な英語使用を推進する。目指すべき授業のポイントを具体的に示して授業改善に取り組み、平成 30 年度の目標達成(85.0%)を目指す。

毎年「英語教育実施状況調査」及び「県学力調査」を実施することで、教員の英語指導力を含めて年次ごとの変容を把握していく。また、「英語授業づくりのポイント」を踏まえた授業の徹底を図り、年間複数回チェックの機会を設けて向上を目指すと同時に、達成状況を把握して検証する。

生徒の英語力については、各学校で外部検定を活用した目標設定を行い、P D C A サイクルによる取組により目標達成をめざす。

【高等学校】

県立高校の英語担当教員のうち、求められる英語力の指標である英検準 1 級以上等を所有する教員の割合は 86.7% (平成 29 年 12 月 1 日現在) で、平成 29 年度における国及び県の目標を上回っている。その一方で、「英語担当教員の授業における英語使用状況」や「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」等の指標は今年度における本県の目標を下回っており、本事業

を活用した研修の強化を図っていく必要がある。

【H29 現状値】※主な指標について（「平成 29 年度英語教育実施状況調査」より）

- ① 求められる英語力を有する担当教員の割合【86.7%】
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合【38.4%】
- ③ 学習到達目標の整備状況  
設定【100%】公表【59%】達成状況の把握【77.1%】
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 50%以上【52.3%】
- ⑤ 英語担当教員の授業における英語使用状況 50%以上【54.6%】

【H30 目標値】※主な指標について

- ① 求められる英語力を有する担当教員の割合【90%】
- ② 求められる英語力を有する生徒の割合【50%】
- ③ 学習到達目標の整備状況  
設定【100%】公表【70%】達成状況の把握【80%】
- ④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 50%以上【60%】
- ⑤ 英語担当教員の授業における英語使用状況 50%以上【60%】

目標値達成に向けた具体的な手立ては、次の通りである。

- ① 「求められる英語力を有する担当教員の割合」  
国の示す目標は達成しているが、平成 30 年度も引き続き指導力向上のために教員自身の自己研鑽の必要性があることを強調し、外部検定試験受験を促したうえで、12 月の英語教育実施状況調査に合わせ、英語教員個々の取得状況について調査する。
- ② 「求められる英語力を有する生徒の割合」  
県独自のスピーキングテストの各学校でのさらなる活用を促し、生徒の外部検定試験受験につなげる。
- ③ 「学習到達目標の整備状況」  
学習到達目標達成状況の把握における各校での具体的な取組について、教育課程研究協議会等で情報共有を図る。
- ④ 「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 50%以上」  
研修実習や本事業による講演会や研修会により、英語による言語活動の具体的な方法の普及に努める。一方で、学校訪問により英語授業を視察し、適宜、指導助言を行う。
- ⑤ 「英語担当教員の授業における英語使用状況 50%以上」  
④の指標と連動するため、手立てについても④と同様とする。授業において教員が終始、英語を話す必要はなく、英語を使う主体はあくまで生徒であることを、各研修や学校訪問による指導を通じて教員に強く認識させる。

さらに、研修実習の参加教員については、自発的な自己研鑽を促すために「目標設定・進行管理シート」（別紙 3）を使って目標を設定させ、県教育委員会に提出させる。

### （3）研修の体系と内容の具体

【小中学校】

- ① 研修実習（小学校：小学校中核教員研修、中学校：中学校英語教員研修実習）  
期 間：3 日間（2 時間×7 セットの演習）  
対象者：小学校教員 60 人、中学校英語教員 70 人  
※各管内（10 管内）に人数を割り振り、受講者を決定  
内 容：中央研修で推進リーダーが習得した教授法等を研修参加教員が習得する。中学校に

においては、平成 30 年度は参加者を 70 人に増やすため、過年度の推進リーダー1 人を加えて計 3 人の講師による研修実習を行う。

② 英語担当者指導法研修会（1 日）

対象者：各管内 各小学校から 1 人

内 容：中核教員研修参加者が研修内容を生かした研究授業を実施するとともに授業実践を紹介する。新教材の効果的な使い方についての講話や Small Talk の演習などにより、英語力・指導力を高めるための研修を行う。

③ 校内研修や公開授業

対象者：全職員（中学校においては英語担当教員の場合もあり）

内 容：研修等で学んだことについて公開授業などを含めた実践研究を行う。

※小学校においては、全学校・全職員で行うことを基本とする。

④ 小学校英語教育フォローアップ研修（4 日）

対象者：各 40 人（計 160 人）

※各管内（10 管内）に人数を割り振り、参加者を決定

内 容：県立教育センター指導主事や推進リーダーによる演習等とおして、英語力・指導力を高める。

⑤ 研修協力校における実践及び公開授業

対象者：校内職員及び公開授業参加教員（県内全域）

内 容：研修協力校の校内研修等において、講話、研究授業への指導助言及び指導案検討等を行う。

P D C A サイクルによる実践により、生徒の意欲面や英語力における定性的・定量的なデータによる変容を検証すると同時に、公開授業においてはその実践成果を参加教員に示し県下全域に波及させる。

以上の研修の評価方法として、年度末に推進リーダーや研修参加教員対象のアンケート調査を行い、意識や指導力の向上の変容について把握する。

推進リーダーの役割

- 研修実習の実施【3 日間／年】
- 域内研修の実施【1 日以上／年】
- 小学校英語教育フォローアップ研修の実施【4 日間／年】
- 研修協力校における公開授業【1 日間／年】
- その他の研修講師

研修実習修了者の役割

- 英語担当者指導法研修会（小学校）での復講【1 日間／年】
- 校内研修の実施【適宜／年】※小学校は 1 日以上／年
- 中学校英語教員における外部検定試験（TOEIC 等）の受験【1 回／年】

【高等学校】

推進リーダーの勤務校を研修協力校とし、研修実習や公開授業、さらには外部講師を招聘しての講演会や研修会を開催する。

研修実習では、中央研修との整合性・連続性を重視した研修を 3 日間に分けて 14 時間（2 時間×7 セット）実施する。研修参加教員には、各勤務校での校内研修と近隣校にも参加を呼びかけて研究授業を行わせる。校内研修については、研修実施報告書（別紙 4）を作成させ、「目標設定・進行管理シート」とともに、年度末に県教委への提出を求める。

外部講師による講演会や研修会については、言語活動やパフォーマンス評価の具体的方法等、ワークショップ形式を主体として実施する。

その他、推進リーダーや研修参加教員に、「外国語指導助手の指導力等向上研修」における分科会で、参加 A L T 及び英語担当教員への研修講師を務めさせる。

①研修実習（3 日間：2 時間×7 セット）

対象者：研修参加教員（推進リーダー1人につき県立高校英語教員20人程度）  
 目的：中央研修で推進リーダーが習得した教授法を研修参加教員対象に伝授する。  
 内容：第1回及び第2回は、推進リーダーによる講義を行う。第3回は講義に加え、研修参加教員が各勤務校で改善を図った教材等を持ち寄り、フォローアップを行う。

②校内研修（6時間程度）  
 対象者：研修参加教員勤務校の英語担当教員  
 目的：研修実習で研修参加教員が学んだ内容について復講するとともに、「CAN DOリスト」の形による学習到達目標に基づいた年間指導計画のあり方について協議する。  
 内容：研修参加教員による講義、年間指導計画の作成等

③研究授業・授業研究会（各研修参加教員1～2回）  
 対象者：研修参加教員勤務校及び近隣学校の英語担当教員  
 目的：研修によって授業がどのように改善されたかを検証する。  
 内容：研究授業及び授業研究会（近隣校（小中高）に参加を呼びかける。）

④外部講師による講演会・研修会（各研修協力校で1～2回）  
 対象者：県立高校全英語教員  
 目的：言語活動やパフォーマンス評価の事例を紹介し、実践を促す。  
 内容：具体例を多く取り入れたワークショップ

⑤外国語指導助手の指導力等向上研修（2日間）  
 対象者：外国語指導助手及び小中高の英語（外国語活動）担当教員  
 目的：外国語指導助手(ALT)及び日本人英語担当者(JTE)のチーム・ティーチングに係る指導力の向上を図る。  
 内容：外部講師による講演、外国語指導助手・日本人担当教員によるワークショップ等

以上の研修の検証として、研修毎のアンケートや研修参加教員対象の報告書及び「管理シート」を基に、教員の意識や指導力の変容について把握する。

推進リーダーの役割 ●授業実習の実施（公開授業）【1～2回/年】  
 ●研修実習（研修参加教員対象）での講義【3日間/年】  
 ●県教委主催の研修会での講師【1～2回/年】

研修参加教員の役割 ○研修実習への参加【3日間/年】  
 ○校内研修の実施【6時間程度/年】  
 研究授業・授業研究会の実施【1～2回/年】  
 ○外部検定試験の受験【1回/年】

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	・英語担当指導主事会（所長・指導課長・指導主事研修会時） ※本事業の説明及び共通理解	
	・H30 推進リーダー（中学校）選定 ・H30 推進リーダー（小学校）選定	
5月	・英語教育推進リーダー会議＜第1回＞	
	・H30 研修実習参加教員選定	
6月	・H30 推進リーダー（小学校）の派遣＜第1回＞	
	・H30 推進リーダー（中学校）の派遣＜第1回＞	
	・小学校中核教員研修（第1回）	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校英語教員研修実習（第1回）</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回研修実習（H27～29 推進リーダー）</li> <li>・校内研修開始（研修参加教員勤務校）</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語担当指導主事会（所長・指導課長・指導主事研修会時）</li> </ul> ※進捗状況等の確認	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校中核教員研修（第2～3回）</li> <li>・中学校英語教員研修実習（第2～3回）</li> <li>・高等学校教育課程熊本県研究協議会（H26 推進リーダー）</li> <li>・第2回研修実習（H27～29 推進リーダー）</li> </ul>	推進リーダーによる実践発表
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導力向上研修会（研修協力校）</li> </ul>	大学教授等の講話・演習
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30 推進リーダー（中学校）の派遣＜第2回＞</li> <li>・第1回小学校英語教育フォローアップ研修</li> <li>・各管内(10管内)での英語担当者指導法研修会（10～12月）</li> </ul> ※研究授業、研修実習参加者による復講等	推進リーダー等による講話・演習
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回研修実習（H27～29 推進リーダー）</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30 推進リーダー（小学校）の派遣＜第2回＞</li> <li>・第2回小学校英語教育フォローアップ研修</li> <li>・第1回 TOEIC IP テスト（研修実習参加教員対象）</li> <li>・各管内(10管内)での英語担当者指導法研修会（10～12月）</li> </ul> ※研究授業、研修実習参加者による復講等	推進リーダー等による講話・演習
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導力向上講演会</li> <li>・外部検定試験受験（研修参加教員）</li> <li>・外国語指導助手の指導力等向上研修</li> </ul>	大学教授等の講話・演習
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育推進リーダー会議＜第2回＞</li> <li>・英語教育実施状況調査の実施</li> <li>・各管内(10管内)での英語担当者指導法研修会（10～12月）</li> </ul> ※研究授業、研修実習参加者による復講等	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業及び指導力向上研修会（研修協力校）</li> </ul>	大学教授等の講話・演習
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3,4回小学校英語教育フォローアップ研修</li> <li>・本年度取組の反省、次年度への志向（担当者会議）</li> <li>・本年度取組の反省、次年度への志向（担当者会議）</li> </ul>	推進リーダー等による講話・演習
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回 TOEIC IP テスト（研修実習参加教員対象）</li> <li>・本年度取組の反省、次年度への志向（担当者会議）</li> <li>・本年度取組の反省、次年度への志向（担当者会議）</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度取組の反省、次年度への志向（担当者会議）</li> <li>・「目標設定・進行管理シート」及び「校内研修実施報告書」の提出（研修参加教員）</li> </ul>	
<b>【その他の取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修協力校による公開授業（小中学校各1回）</li> <li>・県教委主催の研修会や県立教育センターでの研修等、推進リーダーや外部講師を招いての英語指導力向上に関する研修を適宜実施。（高等学校）</li> </ul>		

